

第205号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院



帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

公益財団法人北海道医療団 新年交礼会



帯広第一病院



帯広西病院



音更病院



ながい内科医院

今号の内容

- ・2022年外科手術実績報告 副院長 井伊 貴幸 (2)
- ・東北大学病院研修医外科研修 副院長 井伊 貴幸 東北大学病院 初期研修医 柿沼 峻
感染対策向上加算1届出後の一年を振り返る 感染管理認定看護師 岡 一大 (3)
- ・エチコンハンズオンセミナー 副院長 井伊 貴幸 / オンライン資格確認 (4)

2022年 外科手術実績報告

副院長 井伊 貴幸



十勝管内の先生方にはいつも大変お世話になっております。

当科での2022年の手術実績をご報告致します。

全手術数は379例、全身麻酔304例となりました。そのうち腹腔鏡手術は209例で、全身麻酔手術の約60%以上が腹腔鏡で行われており、その比率はここ数年で大きな変化はなく高い水準を維持しております。

当院では2022年1月中旬に、新型コロナウイルスによる大きなクラスターが発生したことにより一時的に診療停止となり、管内の先生方には多大なご迷惑をお掛けしまして誠に申し訳ございませんでした。

2022年は新型コロナウイルス対策に奔走した1年でした。2つの急性期病棟のいずれかで新型コロナウイルス院内発生が複数回生じ、その度に診療制限せざるを得ず消化器内視鏡検査や外科手術も大きな影響を受けました。患者様だけでなく職員の感染も相次ぎ、人手不足により病棟運営も厳しい状況が続きました。

2023年に入りようやく感染の波が落ち着き、最近では手術件数がコロナ禍前の水準に戻りつつあります。5月以降は新型コロナウイルスの5類移行が決定されるなど医療環境の変化が予想されますが、当院が現在の診療体制を維持し十勝の皆様のお役に立てるように今後も努力してまいります。

先生方には引き続き御指導・御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2022年1月～12月までの実績



胃手術 21例
 ・うち腹腔鏡手術 8例
 結腸手術 54例
 ・うち腹腔鏡手術 32例
 直腸手術 15例
 ・うち腹腔鏡手術 14例
 胆嚢摘出術 71例
 ・うち腹腔鏡手術 67例
 胆道癌手術 0例
 肝切除 7例

膵切除 5例
 虫垂切除 26例
 ・うち腹腔鏡手術 22例
 ヘルニア手術 82例
 ・うち腹腔鏡手術 61例
 乳腺手術 6例
 その他 100例

手術総数 379例
 腹腔鏡手術総数 209例

東北大学病院研修医外科研修

指導医より

副院長 井伊 貴幸

当院は消化器内科、消化器外科、脳外科に関して東北大学の関連施設となっていることから、常勤医だけでなく、東北大学病院より初期研修医の受け入れも行っております。（たすき掛け研修）

2023年1月1日より2ヶ月間、初期研修医1年目の柿沼峻先生をお迎えし、外科で研修して頂いております。

現在の初期臨床研修制度では、2年間のうちに経験すべき疾患や必修の科が定められており、外科は最低4週となっております。柿沼先生は将来的に外科医になることを目指しており、当院では消化器外科疾患を中心に修練を積んでいます。

大学病院では上級医が執刀となることがほとんどですが、当院のような市中病院では虫垂炎や鼠径ヘルニアなど大病院では逆に見る機会の少ない疾患を多く経験でき、また常勤医の手厚い指導のもとで執刀も経験してもらっています。

全国的に外科医を目指す若手医師が減少していることが危惧されている中、柿沼先生のようなやる気のある医師を大切に育てていくことも、使命の一つと考えております。

日頃より地域の先生方には多くの患者様のご紹介を賜り大変感謝申し上げます。患者様の安全を担保しながらより良い医療に努めてまいります。今後とも宜しく申し上げます。

東北大学病院

初期研修医 柿沼 峻

東北大学病院初期研修医1年目の柿沼峻と申します。

2023年1月、2月の2ヶ月間帯広第一病院で外科研修をさせて頂いております。

もともと手技や現場での対応力、診療能力を高めることを目的に帯広第一病院での研修を希望しました。この2ヶ月間は数十件の手術に入らせて頂いただけでなく、指導医の先生方が積極的に手技や診療の機会を与えて下さったおかげで、手術手技や診療方針の立て方などの点で成長することができたと感じています。特に実際に執刀医として手術を行うことができたのは自分の視座を高めてくれる経験になりました。

また、帯広第一病院の研修医の先生方と出会えたことも刺激になりました。手技の熟練度や画像の読影能力など基本的なところでの差を感じることも多く、自分の未熟さを痛感すると同時に、今後の課題を見つけることが出来ました。残り一年の研修期間ですが、この経験を忘れず、日々精進していきたいと思っております。

感染対策向上加算1届出後の一年を振り返る

感染管理認定看護師 岡 一大

新型コロナウイルス感染症の流行が長期化する中、2022年度の診療報酬改定で感染防止対策加算が感染対策向上加算へ名称が変更になり、加算1施設にはAST（抗菌薬適正使用支援チーム）の設立が標準化されました。また、外来感染対策向上加算の新設により医院やクリニックも感染対策について診療報酬を受けることができるようになりました。

当院は前年度まで感染防止対策加算1を算定しており、発熱外来の設置・運用等の取り組みから感染対策重点医療機関となり、今年度より感染対策向上加算1の算定を開始いたしました。ASTを設立して抗菌薬の適正使用を管理するなど新型コロナウイルスの対応を強化しながら、外来感染対策向上加算算定施設との連携を進めてまいりました。現在、感染対策向上加算3医療機関1施設と外来感染対策向上加算医療機関5施設と連携し、年4回のカンファレンスで情報交換を行っております。地域の医院・クリニックとの連携は初めてのことであり、取り組みについては手探りのところもありますが、医院・クリニックの方々との情報交換を通じて、地域での感染症の発生状況や取り組み状況を知る良い機会となっております。

今後は、連携している医療機関との連携をさらに深め、出張研修など地域の感染症対策に貢献していきたいと考えております。

エチコンハンズオンセミナー

副院長 井伊 貴幸



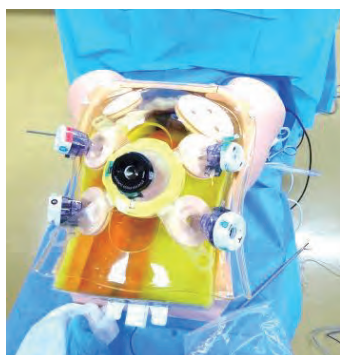
2023年2月2日にジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社エチコン事業部さんのご協力を賜り、腹腔鏡手術のハンズオンセミナーが院内の外科医、研修医を対象に開かれました。

ドライBOXにS状結腸をモデルとした人工模擬臓器を設置し、実際の手術で使用する電気メス、超音波切開凝固装置などを用いて、腹腔鏡補助下S状結腸切除のトレーニングを行いました。

当院研修医1、2年目の先生方が中心に執刀し、常勤の外科医が腹腔鏡のカメラを持ちながら指導します。模擬臓器は組織ごとに色分けされ、実際の手術の執刀をしたことがない研修医の先生にとっても、剥離面が分かりやすくなっておりました。2時間程度かかりましたが、無事に臓器摘出まで終わることができました。

患者様の手術を安全に施行できるように研鑽を積むとともに、若手外科医の指導にも非常に有用なセミナーとなりました。

このようなセミナーを年に3回程度定期的に行い技術の向上を図りながら、地域の医療に貢献して参りたいと思います。



オンライン資格確認



ご利用いただけます。



オンライン資格確認は受付、会計前に設置しております。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3

TEL 0155-25-3121 (病院代表) / 0120-558-091 (連携室直通)

FAX 0155-27-0248 (連携室専用) e-mail renkei@zhi.or.jp

